

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成27年3月12日 NO.98 (198)

花ちゃん 「モンタ博士！花粉集めは、どうするのですか。」

モンタ博士 「『花粉だんご』を『花粉パン』にするのさ。」

オー君 「え！『だんご』を『パン』にする？」

モンタ博士 「花粉だんごをかみくだいて、巣に頭でおしこむのさ。ハチミツがしみてからくさらないのさ。」



花ちゃん 「それを『花粉パン』というのですね。」

モンタ博士 「そうだよ。それがハチの体づくりのもととして使われるのさ。」

オー君 「つまり、幼虫たちのえさになるということですね。」

花ちゃん 「いろいろなことがわかってきて、とてもうれしいです。ところで、モンタ博士。ミツバチの巣って、どうやって作るのですか。」

モンタ博士 「いい質問だね。ミツバチの巣はね、ロウでできているんだ。」

オー君 「え！ロウでできているの？」

モンタ博士 「それもミツバチのおなかにあるワックス腺という所から巣の材料であるロウが分泌され、それを口でねったりくっつけたりしながら作っていくんだ。」

オー君 「あ！ぼくテレビで見たことあるよ。きれいな巣だね。」

モンタ博士 「働きバチたちが触覚や首のかたむきなどを定規のように使って作るんだ。」

オー君 「へえー。そうなんだ。スズメバチやアシナガバチハチは母親バチが巣を作るんでしょ。それじゃ、ミツバチの母親バチは何をしているんですか。」

モンタ博士 「またいい質問だ。ミツバチの母親バチは、女王バチというんだ。大きなおなかに、たくさんの卵が入ってるんだ。女王バチには花粉バスケットもなければ、ワックス腺もない。卵を生み続け





るマシーンみたいなものさ。」

オー君 「え！ただ卵を生むだけなんですか。」

モンタ博士 「その通りだよ。女王バチは1日に
1500個も卵を生むんだ。」

オー君 「へえー。そんなにたくさん。」

花ちゃん 「一日は24時間で、1時間は60分でしょ。」

60分×24時間で1440分だから、つまり、だいたい1分間に1個の卵
を生むのね、ミツバチのお母さん、つまり女王バチってすごいんですね。」

モンタ博士 「そうだね。でも女王バチのすごさはそれだけではないんだ。特に女王バチは
力があるからとか、頭がいいとか、りっぱな行いをするとかで、
20000匹の働きバチを支配しているわけではないんだ。」

オー君 「では、どうやって支配しているのですか。」

モンタ博士 「またまたいい質問だ。それは、あごから『女王物質』という化学物質を分泌
して、体の表面にまとっているんだ。女王バチの近くの働きバチは、この
女王バチの化学物質をなめては、他の働きバチに受けわたしているのさ。」

オー君 「ねえ、モンタ博士。ミツバチはダンスをして、仲間にいろいろな情報を伝えて
いると、ある本に書いてあったけど、女王バチの化学物質も情報を伝える
ものだったですね。」

モンタ博士 「その通りだね。わずかな女王物質が、働きバチ全員の卵巣の発達をおさ
えたり、働きバチの反乱をおさえたりいるんだ。。ちょっとむずいお話かな。」

オー君 「でも、いろいろなことがわかりました。」

花ちゃん 「ミツバチの世界って、いろいろなことがあって、おどろきがあり、感動が
ありました。これからもいろいろなハチの生活を調べたいです。」

働かない働きバチもいるというお話

働きバチというと、女王バチの部下でとても勤勉な存在のように思われますが、実態はそうでもないようです。ある研究書物によると、働きバチは、一生を様々な仕事に明け暮れている存在ではないそうなのです。実は働きバチの半数以上は何もせずに休んでいたり、巣の中をぶらぶらと歩き回っているだけなのです。やらなければならない仕事があると、それを片付けると、また休息やぶらぶら歩きをしています。無駄のような存在ですが、この多くの非労働者がいることにより、敵の襲撃など緊急事態にも、コロニーは適切に対応することができるという本に書いてありました。